

日本経団連「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート」結果に対する G30 採択 13 大学¹からの主な意見・コメント

(日本経団連事務局による要約)

テーマ・課題	主な意見・コメント
<p>1. グローバル人材育成に向けて、大学に優先的に取り組んでほしいことへの感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 専門科目の外国語による講義は、一般的に学生の講義の理解度が明らかに低下するので、全学生を対象とするには簡単に踏み切れない。G30 によるコースを利用して、関心と英語能力のある日本人学生が履修できるようにするところから始めるのが現実的である。 ➤ 日本人学生には、語学力および国際感覚を身につけさせること、留学生に対しては日本の文化や習慣、日本語力を身につけさせるように取り組んできた。これらの取り組みを益々充実させたい。 ➤ 大学でのグローバル人材の育成を拡充強化するためには、学生の積極的な受講がかかせない。そのためには、学生に自分たちの就職や将来のキャリアにプラスであることが明確に伝わる必要があり、企業側の努力を求めたい。 ➤ 学生が実際に海外経験を積んだり、外国語を研鑽する上で、企業の採用活動が三年次から始まるのがネックとなっている。大学教育四年間といいながら、実質は就職活動のため二年ほどしか集中して学べる期間が取れない。また、一番海外経験を積める時期である三年生の中に就職活動をしなければならないことが非常に大きなマイナスとなっている。 ➤ 大学独自で取り組むのは難しい。産業界からの積極的な講師の派遣のもと、連携して取り組む必要がある。

¹ 政府の国際化拠点整備事業（グローバル 30）の下で、国際化の拠点として採択され、留学生の受入れ拡大や海外大学との連携強化などの大学の国際化を総合的に推進している大学

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「外国語で履修するカリキュラム」については設置するほとんどの学部において拡充を図るべく、科目の新設及び外国人専門科目担当教員の採用等を行なっている。留学生送り出しを拡大しようとしているが、就職活動などで難しい。ぜひ産学共同でこの問題を解決していきたい。 ➤ 「専門科目の外国語での履修」や「グローバル・ビジネスの実態を学ぶ」については、本学においても積極的に取り組むべき課題の一つと考えており、これまでも、本学の学生を米国シリコンバレーに派遣し、見学や現地の企業人、学生との意見交換等を行うプログラムや ASEAN と東アジア、及びアジア言語文化を学ぶ短期留学プログラム等のプログラムを実施している。
<p>2. 大学生の採用に当たって重視する素質・態度、知識・能力へのコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 最近の大学生に不足する資質、能力・知識と、採用に当たって重視する資質、能力・知識がほぼ一致している。これは重視するが故に不足感を強く感じているものであろうが、その中で大学教育に期待されるものは比較的限られている。 ➤ コミュニケーション能力や協調性などは、一朝一夕に養えるものではなく、家庭や初等中等教育も含め、長期的な視点で育成していくべきものである。 ➤ 企業が採用の際、主体性やコミュニケーション能力を重視している点は、大学教育でも重視していかなければいけない要素と合致していると考え。本学においては、少人数教育によるきめ細かな対応をしつつ、将来社会を担う大人としての責任や判断を求めることで、学生の主体性や責任感も醸成する必要があると認識している。 ➤ 採用時に重視される要素として、従来から素質・態度に力点が置かれていることは、企業における個别人材の評価という点では理解できるものの、学問を学ぶ場である大学としては、知識・能力に関する項目も決して疎かに出来ないと考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学業成績が「優」よりも「良」の学生のほうが好感を得て採用されやすい傾向があるよう思われる。仕事に対するモチベーションの構築という観点からは、取り組みの原点にあるものをもう少し指標化して評価することができないかと思われる（例えば「信念」「モットー」）。 ➤ 大学生の採用に当たって、大学教育の内容より、コンピテンシーやスキルが重視されていることについて、大学教育に対する課題が見て取れると感じる。
<p>3. 文科系、技術系・理科系の大学生・大学院生を採用する立場から、大学教育に期待するものへの感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 産学連携（インターンシップ等）による教育プログラムが有効と思われるので、今後、企業と大学が連携し、実行することで、企業の期待に応えていきたい。 ➤ 指摘されている能力は、専攻科目における具体的課題をもとにした教育内容に沿うものと言えるし、大学院ではより高いレベルの能力が求められている。しかし、学部卒より修士修了者、さらには博士課程修了者がレベルと質においてさらに高度な能力が育成されているにも関わらず、産業界では採用時とその後の待遇などにおいて適切な対応が見られない。 ➤ 文科系の「論理的思考力や課題解決能力を身につけさせる」「チームを組んで特定の課題に取り組む経験をさせる」といった内容は、かつてと異なり、文系の学部でもかなり講義・授業・ゼミの中に取り入れられている（ケース・スタディーなど）。 ➤ 社会で働くためには、論理的思考や課題解決能力は欠かせないが、専門分野が細分化・高度化される中では、とりわけ理系の学生の専門分野や専門関連分野の知識修得には、学部四年間だけでは十分ではないケースもある。ある程度の専門性修得には、学部・大学院を通じた教育が必要な面もあるのではないか。 ➤ 体系的なカリキュラムに基づく専門教育と併せて、少人

	<p>数教育の特色を活かした「対話」による指導を通じて、論理性や課題解決能力を伸ばす教育を行っている。多くの産官学連携プロジェクトを活かして、インターンシップや実社会との触れ合いの機会を作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ そもそも高等教育の目的は論理的思考や課題解決能力をつけることであるが、それが徹底していないという指摘と受けとめる。 ➤ 技術系/理科系と、文科系では「専門分野の知識」に対する期待が大きく違うことが有意差として出ているように読める。人材育成のあり方についての参考としたい。
<p>4. アンケート全体に対する意見および産業界に期待すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ グローバルに活躍する日本人人材に求められている素質、知識・能力と、G30で求められている素質、知識・能力が完全に一致している点が面白い。大変心強く、励まされる思いである。 ➤ 就職してすぐ役に立つ知識や技術というのは短期的にすぐ陳腐化してしまう。大学はもっと中長期的に自分で学んでいける力や知性、グローバルに通用する教養といったことを学ぶ場である。 ➤ 大学側から産業界への要望として、留学生、帰国日本人子女をもっと積極的に採用すべき、博士号取得者に対する評価・待遇を改善すべき、優秀な学生を育成するための奨学金や宿舍問題、インターンシップの充実などの解決に協力して欲しい、等があげられる。 産学連携では、情報共有を行い相互理解を深めると共に、具体的なプログラムを実現すべきである。そのためには全国レベルの仕組み作りが肝心で、大学と産業界を代表する機関として、G30 採択大学と経団連の間で共同作業をすることは意義がある。 ➤ 具体的な協力のための提案をしたい。①早ければ大学二年生から、夏休みを利用して最低でも四週間のインターンシップを実施、②エントリーシートではなくオン・キ

	<p>キャンパス・リクルーティングによる採用、③柔軟な採用時期（G30 の学生は9月に卒業して 10 月に入社可能）、④ボストン・キャリア・フォーラムではなく、日本の大学で学ぶ学生を優先的に採用 等。</p> <p>➤ 産業界には、大学の国際化が現在の国内高等教育機関には急務であることについて、国内社会に周知・理解することに一層の協力をお願いしたい。特に国際化への対応については、学生が在学中に留学を経験することが極めて重要であるが、近年の就職活動の早期化によって、学生の留学が困難になっている。</p> <p>➤ インターシップの受け入れや経営幹部の講師としての派遣に取り組む企業がまだまだ少ない。産業界の直接的な協力のもと、大学と連携して人材育成を行うことが求められていると考える。また、大学では、実社会や職業に直接結びつかない内容の学びを通して、素養・教養を身につける機会を提供することも重要な役割の一つでないかと考える。</p> <p>➤ グローバルな人材を必要とするというメッセージが学生に十分に伝わっていないという印象を持っているので、ぜひ「わが社は国際経験を持つ学生を希望する」というメッセージを積極的に発信してほしい。早期の就職活動が学生の海外体験を著しく難しくしており、将来の日本に憂慮すべき状況をもたらすと危惧している。また優秀な留学生も育てっており、是非、将来の幹部社員として留学生を採用することを検討してほしい。</p> <p>➤ 産業界への期待として、学生がいわゆる就活を避けられるように真摯に考えていただきたい。就活のために授業を受けない、あるいは外国での経験を敬遠する学生が多いという現実を受けとめていただきたい。就活はよい教育を受ける機会を奪っているのではないか。この点が改善されないと期待される教育プログラムを作ってもその効果は小さい。</p>
--	--

	<p>➤ 大学における各学部の教育は、それぞれの人材養成目的に従って行っている。これら学部教育は、専門的知識の修得のみならず、専門教育等を通じて学生が様々な「能力」を身に付けることも重視している。従って、必ずしも特定企業の求める専門性とは一致しないと思われる。しかし、一部において、就職活動で学生が必要と思っている能力と、企業が必要としている能力に差や相違があることは事実であり、就職支援だけでなく、入学前から卒業後までの総合的学生の支援の構築に努めている。</p>
--	---

以上